

令和5年度 世界へのトビラ事業 オンラインミーティング開催報告

1. 日 時 令和5年4月26日（水）10：00～11：30
2. 会 場 オンラインで各所（Zoom を利用）
3. 参加者 15名（外国人講師 10名 / アドバイザー 5名）
4. 開催内容 事務局からの提案「講師の選定方法について」についての意見交換。

（主な意見等）

◆変更理由を知りたい。

→以下は、外国人講師の国別派遣状況を表した表。合計を見ると登録人数に対して派遣実人数が少なく、その差が大きい。また派遣延べ人数を見ると分かるように、活動していただいている国にも偏りが出てしまっている。登録いただいている講師の皆さんには、まずは平等に機会を提供できないかと考えて、選定方法についての変更を検討している。

地域	国	登録人数	派遣実人数	派遣延べ人数
アジア	インド	1人	1人	7人
	インドネシア	3人	1人	4人
	韓国	9人	3人	10人
	カンボジア	1人	1人	1人
	スリランカ	1人	0人	0人
	タイ	1人	1人	1人
	台湾	3人	1人	1人
	中国	18人	3人	7人
	中国（ウイグル）	2人	1人	2人
	中国（チベット）	1人	0人	0人
	中国（香港）	1人	1人	5人
	ネパール	1人	0人	0人
	パキスタン	1人	0人	0人
	バングラデシュ	2人	0人	0人
	フィリピン	4人	1人	1人
	ベトナム	7人	2人	5人
	マレーシア	2人	1人	12人

地域	国	登録人数	派遣実人数	派遣延べ人数
	モンゴル	1人	1人	1人
中東	アフガニスタン	1人	0人	0人
	トルコ	2人	1人	2人
ヨーロッパ	イタリア	1人	1人	15人
	スペイン	1人	0人	0人
	ハンガリー	1人	0人	0人
	ルーマニア	1人	0人	0人
	ロシア	6人	1人	4人
アフリカ	ギニア	2人	0人	0人
	マリ	1人	0人	0人
	モロッコ	2人	2人	7人
中南米	アルゼンチン	1人	1人	13人
	コロンビア	2人	1人	9人
	パラグアイ	1人	1人	13人
	ブラジル	4人	0人	0人
	ペルー	6人	2人	4人
合 計		91人	28人	124人

今までは、依頼が来たら事務局がまずアドバイザーに連絡、アドバイザーが決まったらそのアドバイザーから外国人講師に声をかけて、講師選定を行ってきた。

そうすると、いつどんな依頼があって、どんな講師が実際に活動をしているのかが不透明だった。登録はしているが、連絡がこなければ活動ができない、という課題があると考えている。今後は事務局から対象となる講師全員に情報提供することで、やりたい時にやりたい方が手を挙げて参加できるよう、まずは公平な機会提供ができるようにと考えている。

【アドバイザーからの意見】

- ◆今までの方法では、何度声をかけても断られる講師もいた。そうすると声をかけづらくなっていた。活動している人は、やる気のある方だと思う。
- ◆今後の方法ではお知らせを受けて、手を挙げても参加できない人の気持ちを汲んであげるべき。
- ◆連絡をしてレスポンスが早い人も講師として選ぶ基準だと思う。期間は短くして足りなければ期限延長をするという形でもいいのではないかな？
- ◆依頼が立て込む時期もあると思うので、1つの依頼が決まったら次の依頼というように、なるべく依頼が重ならないようにしてほしい。
- ◆アドバイザーが誰かわかっていた方が外国人講師が手を挙げやすいという意見について。

今まで通り、先にアドバイザー募集をしてアドバイザーを決定。アドバイザーは学校と内容のすり合わせをしてから講師を決めるという方法ではどうか？

- ◆アドバイザーが講師を決めるにあたって、今まで通り内容を把握した上で講師決定をした方が決めやすいと思う。
- ◆アドバイザーが決まって、講師募集をするときに、依頼内容と一緒にアドバイザーから講師へのメッセージを添えておけば、講師もどんなアドバイザーと一緒にいくのかわかって安心できるのではないか？例えば、新しく登録したばかりのアドバイザーでもそのことをメッセージにしておけば、ベテランの講師と一緒にいってあげようという気持ちになって手を挙げることにつながるなど。
- ◆人の考え方も様々だし、一度走り出してやってみて不都合があれば変更していくというトライアンドエラーでいいのではないか。

【外国人講師からの意見】

- ◆必要人数以上に手を挙げる人が多くて、もし選ばれなかったら次は選んでもらえるのか？バランスを見て決めてほしい。
 - ◆アドバイザーも講師も同じタイミングでお知らせを受け取ると、今までみたいに誰がアドバイザーをするかわからない状態。好き嫌いではないが、事前にアドバイザーが誰なのかを知ることはできるか？
 - ◆顔も知らないアドバイザーと一緒にいくことは不安。こういったZOOMでもいいので前もって顔合わせをする時間が欲しい。まだ授業が込み合う時期までには時間があるのでそれまでに月1回でも「おはなし会」のような気軽なものでいいので開催してほしい。
 - ◆仕事や、予定もあるので1週間の募集期間は長いと思う。もっと短い期間にできないか？
 - ◆半分は新しい講師、半分は経験がある講師というように、一緒にいくメンバーは偏りがないようにした方がいいと思う。
 - ◆自分が授業の中でできる体験活動などは登録当初とは変化していることも多い。改めてこんなことができますということを手を挙げたときにアピールするといいいのではないか。
 - ◆講師の要望も学校に伝えてほしい。
 - ◆やる・やらないの返事以外に受け取った依頼に対して自分はこんな授業を考えている、こんなことができるという自己PRを添えて返事ができるようなフォームにしてもらえるといいと思う。
 - ◆まだイメージができず、どう思うかもよくわからない。
 - ◆手を挙げたけど決まらなかった人、また決まった人は誰から連絡があるか？
- ⇒決まった講師はアドバイザーから連絡をして内容を一緒に確認。決まらなかった講師へは事務局から返事をするようになると思う。

【まとめ】

◎今回の意見交換を通して、お知らせを受け取る側としては、募集期間は短くてもいいので、

できるだけ早く決定してもらえた方がいい、予定を早く確定させたいとのことだった。今までアドバイザーから連絡を受け内容を聞いて、同時に予定を決めていた講師にとって、事前にアドバイザーが決定している方が違和感がない。

また、アドバイザーは講師を決めるにあたって、依頼先と事前に内容のすり合わせをしておく必要がある。

そのため、依頼がきたら、まずは依頼内容をお知らせして、アドバイザーを募集。決定後、アドバイザーは依頼先と内容すり合わせ。その間、事務局は講師募集。活動を希望する講師の情報をアドバイザーと共有して講師を決定する、という流れに変更することで進めていきたいと思う。

◎アドバイザー及び講師双方から、お互い顔合わせをしておくことで授業当日がスムーズに進むという意見が多くあったことから、今後は繁忙期以外で月1回はこういったオンラインミーティングの場を設けて、お互いの自己紹介をしたり、講師が授業内容について話あったりする時間を提供できるように進めていきたい。

【講師等決定までの流れ】

